

# 子育て支援にプレイバックシアターを活用するためのポイント

重石 多鶴子

プレイバックシアターOnce(ワンス)代表

## 団体と活動背景

Once(ワンス)は大分市の子育て支援事業の一環として設立され、独立後は多分野において活動を行っている。原点である子育て支援は、設立以来、地域が運営する子育てサロンと連携し、12年継続して行っている。子育てサロンは、地域で安心して親子が集う場を作ると共に母親の孤立を防ぐために運営されており、そのための一つのツールとしてプレイバックシアターを活用してくれている。Onceが目指している「母親たちが安心して、悩みや不安、そして喜びを語る場をつくること」は、サロン活動と協働することで定着してきたと言える。保育園の保護者会での公演など単発公演もあるが、本発表では継続公演を実現する方法を提案する。

## 事業実現の3つのポイント

### ポイント1

・主催者の確保

### ポイント2

・助成金の提案

### ポイント3

・託児サービスの提供

## 実践事例

### ①主催者の確保

- ・自治体が募集する「〇〇団体」や「〇〇講師」に登録する。(活動場所の確保や講師派遣に有用)
- ・自治体の子育て支援担当課で、子育て支援活動を行っている団体の情報を入手する。
- ・団体の代表者にプレイバックシアターの効果をPRする。団体の活動状況や場所を確認するため訪問して行う。
- ・団体関係者を劇団の自主公演に招き、実際に劇場空間を体感してもらう。

### ②助成金の提案

- ・子育て支援担当課で、子育て支援活動団体への助成金について調べる。
- ・「子育て支援」に限らず、「地域活動」など幅広く探してみる。
- ・①でプレイバックシアターに関心を示した子育て支援団体に、助成金の活用を提案する。
- ・助成金の申請方法や実施報告に関する事務について説明し、手続き等の相談に乗る。
- ・主催者に、母親が安心して子どもから離れ、ゆったりと参加できる環境をつくることの必要性を説明する。
- ・主催者と共に託児サービスを提供するための方法を検討する。
- ・託児の担い手候補にプレイバックシアター体験の機会を提供し、必要性を実感してもらう。
- ・託児の担い手にやりがいを感じてもらうため、母親の感想を伝えたり感謝の言葉を伝える。(要:テラー承諾)

### ③託児サービスの提供

## 活動の様子



## 参加者の感想

- 出産の時の気持ちを劇で観て、より一層子どもが愛おしくなった。出産で頑張った自分をもっとほめようと思った。
- 私だけがたいへんで不安なのではないと感じ、時間がなくてバタバタしても子どもに優しくしたいと思えた。今を大切にしたい。
- 他の人の話で自分の出産の時のことを思い出してよかった。生まれてくれてよかったなという喜びがあったなあと。
- 叱られて泣いた子が、うたた寝した私に毛布を掛けてくれた時のことを再現してもらい、愛おしい気持ちが溢れてきた。
- 初めて託児をして心配だったが自分だけの時間を過ごした。集中して劇を見たり語ることができてよかった。これからすぐに行って抱きしめたいと思う。

## まとめ

プレイバックシアターを地域に届けるためには、その対象ごとに取り組みの手立てに工夫が必要である。子育て中の人に届ける場合の一例としてOnceの取り組み事例を紹介したが、ポイント①の主催者へのアプローチは他の方法も考えられるだろう。例えば、地域の民生委員や子育て支援団体と劇団メンバーが直接の知り合いであれば、その人を通じて売り込みをする、地域の公民館に出向き、子育て支援事業に組入れてもらえるよう交渉してみる、などが考えられる。ポイント②の助成金活用が難しければ参加費を徴取する方法もある。ポイント③の託児サービスは、担い手として、地域の元気な高齢者や民生・児童委員などが考えられるが、主催者を通じて声をかけてもらうと効果的である。主催者、助成金、託児が一度に揃わなくても、まず主催者を探すと機会を確保できる。